

平成29年度（設立初年度）
事業報告及び計算書類

平成29年4月3日から

平成30年3月31日まで

一般財団法人
長岡花火財団

—目 次—

1. 平成29年度事業報告	1
2. 平成29年度計算書類	1 1

平成29年度 事業報告

一般財団法人長岡花火財団

平成29年度 事業報告

(平成29年4月3日～平成30年3月31日)

1 長岡まつり大花火大会の企画・運営

(1) 平成29年度長岡まつり大花火大会の開催結果

- ・平成29年8月2日(水曜日)、3日(木曜日)
- ・観覧客数 8月2日52万人 3日51万人 計103万人 前年比1万人増
- ・大型花火台数 各日39台 計78台(平成28年度と同数)
- ・花火協賛額 219,520,676円(2日3日合計)
(うち新規大型花火協賛4件、新規共同スポンサー天地人14件、この空の花5件)

(2) 主な花火の内容

- ・花火大会復活70年特別バージョンとして、冒頭のナイアガラ超大型スターマインをさらに豪華に打ち上げた。
- ・慰霊・復興・平和の想いを込めて正三尺玉3連発を打ち上げた。
- ・フェニックス花火は、世界規模の平和の祭典、オリンピックの「輪」をイメージし、平原綾香さんのjupiterに合わせて5分のフルバージョンで打ち上げた。
- ・天地人花火、花火「この空の花」、花火「故郷はひとつ」、米百俵花火・尺玉100連発は、昨年同様、長岡ゆかりの音楽で打ち上げた。
- ・長生橋80周年に合わせ、彩られた長生橋とナイアガラ、正三尺玉のコラボレーションが実現し、多くの観覧客を魅了した。

(3) 安全対策の内容

- ・警察、警備員、市職員等が一丸となり、会場内外の安全対策の徹底や交通渋滞の解消など、花火客の安全確保を最優先とする取り組みにより、大きな事故なく開催することができた。
- ・民間警備員は2日間で約1,600人、市案内誘導員約800人の動員に加え、警察、消防、JR長岡駅等、総勢約4,000名体制による安全対策を実施し、スムーズ、かつ適切な安全広報・誘導を図った。

(4) 交通対策の内容

- ・交通規制エリア内外での違法駐車が目立ち、周辺住民からの苦情が多数寄せられた。関係機関と連携し、対応を検討していく必要がある。
- ・シャトルバス運行は円滑に行われ、花火会場付近の渋滞緩和に効果的であった。

(5) 広報対策の内容

- ・長岡花火公式アプリは、2日間で3万超の利用があり、渋滞情報や駐車場情報など、観覧客が求める情報の積極配信により、効果的な情報発信が図れた。
- ・「かこパッド」をアオーレ長岡シアターで上映し、来岡する花火客に対し、長岡花火に込められた想いの伝承活動を図った。
- ・2日間ともにテレビの生中継により、全国に発信を行った。
(2日：BSプレミアム、3日：BS日テレ)
- ・地方紙、情報誌、TV、ラジオでの広報活動に加え、パブリシティを活用した効果的な花火情報の発信を図った。

(6)外国人観光客に対する対応

- ・新たに通訳ボランティアの配置や外国人向けの指差し会話シートの配備により、外国人に対してより効果的な案内誘導を図った。

状 況 写 真

右岸観覧席の様子



大手大橋東詰入場時の様子



観覧客からの問い合わせの様子



長岡駅前方面別動線の様子



2 長岡の誇りを伝える活動

(1) 長岡花火をテーマとしたフェニックス音楽祭の開催

- ・平成 29 年 10 月 22 日(日曜日)、アオーレアリーナにて
- ・観覧客数 2,200 人
- ・出演者 長岡まつり大花火大会で打ち上げられているミュージックスターマインの音楽提供者である宇崎竜童さん、沢田知可子さん、地元小学生ほか
- ・フェニックス花火協賛額 720,153 円

(2) 学校等への訪問活動

① 統一コンテンツの活用

- ・次世代を担う子どもたちへ、長岡まつりの起源を伝えるとともに、長岡花火に込められた想いを通して長岡に誇りを持ってもらうため、関係団体と共同で作成した長岡花火アニメーション(かこパッド)を活用し、小中学校への長岡花火普及啓発活動を行った。
- ・平成 29 年度実績：10 校 412 人

② ボランティア活動を通じた人材育成の強化

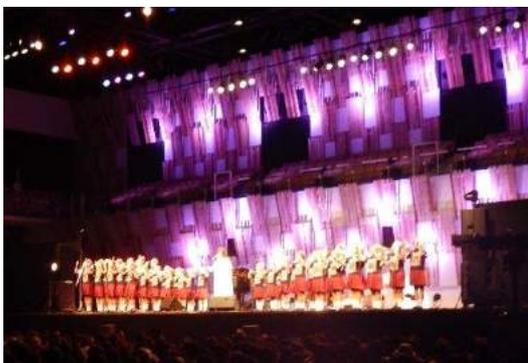
- ・フェニックスボランティアを中心に、フェニックス花火の募金や長岡花火の普及・啓発活動などを通じて、ボランティア人材の育成を行った。
- ・2017 フェニックス花火協賛金 11,994,092 円

(3) 長岡花火ブランド発信拠点の活用

長岡花火情報の発信拠点

- ・ながおかミニ花火ミュージアムにおいて、花火玉や打上筒の展示を行い、長岡花火の歴史等の普及啓発を行った。
- ・ブランド発信の拠点として、アオーレシアターで映像コンテンツの上映を行った。
- ・H29 アオーレシアター利用者数 16,653 人

フェニックス音楽祭の様子



長岡花火普及啓発活動の様子



3 長岡花火ブランドの全国・世界発信

(1) メディア等との連携による発信強化

① メディアを通じたPR

- ・大花火大会の全国生中継を軸に、ラジオ、雑誌等を活用したメディアミックスによる情報発信を通年で行った。

(大花火大会)生中継放送 2日3社(うち全国放送 2社)

3日2社(うち全国放送 2社)

- ・新たにスマートフォン専用の長岡花火公式アプリを配信し、花火プログラムや交通情報、花火会場マップなどの掲載のほか、プッシュ通知によりリアルタイムで情報を配信した。
- ・平成 29 年 5 月 2 日配信開始、花火大会両日で 3 万 3 千人以上が同アプリを利用した。

② 長岡花火にゆかりのある著名人を通じたPR

- ・長岡花火をテーマとしたフェニックス音楽祭の開催（再掲）
- ・平成 29 年 10 月 22 日(日曜日)、アオーレアリーナにて
- ・観覧客数 2,200 人
- ・出演者 長岡まつり大花火大会で打ち上げられているミュージックスターマインの音楽提供者である宇崎竜童さん、沢田知可子さん、地元小学生ほか
- ・フェニックス花火協賛額 720,153 円

③ 企業とタイアップしたPR

- ・長岡花火のロゴを使用したタイアップ商品や、地域活性化包括連携協定により、企業と連携しPRを行った。
- ・H29「長岡花火タイアップ商品」認定 6社

(2) 海外でのブランド発信の推進

姉妹都市ホノルル市での長岡花火打ち上げ、台湾旅行博への参加

- ・ホノルルフェスティバル財団、国際交流協会と連携し、ホノルルフェスティバルで長岡花火の打ち上げを行った
- ・平成 30 年 3 月 11 日 ワイキキビーチで 5 台 13 分間、フェニックス・天地人・慰霊の花火など約 1,400 発

(3) 長岡花火ブランド発信拠点の整備（再掲）

アオーレ長岡シアターの活用強化

- ・ブランド発信の拠点として、アオーレシアターでの映像コンテンツの上映を行った。
- H29 アオーレシアター利用者数 16,653 人

(4) 長岡花火の拡大展開

① 「信濃川夕遊縁日」～花火のまち長岡～の開催

- ・花火大会終了後の観覧席の一部（右岸マス席）を活用し、(一社)長岡青年会議所と

共同で開催したもの

- ・屋台の出店や縁日イベントの実施のほか、エンディングに長岡花火を打ち上げて「花火のまち長岡」を演出した。

平成 29 年 8 月 10 日(木)～12 日(土) 12:00～20:30 10 日のみ 16:00～20:30

来場者数 10 日 3,000 人、11 日 9,000 人、12 日 5,000 人 計 17,000 人

飲食ブース 24 店舗、フリーマーケット出店 45 店舗

長岡花火打上げ 1 日当たり 7 号 5 発、スターメイン 2 台

② 長岡花火ウインターファンタジー

- ・毎年の冬の恒例行事となっている丘陵公園の「ウインターイルミネーション」と、「長岡花火」のコラボレーションを実現したもの。
- ・フィナーレに、ウインターファンタジーバージョンのフェニックス花火を打ち上げた。

平成 29 年 12 月 1 日(金) 19:30～20:00

観覧者数 3,592 人

③ 他の花火大会と長岡花火の一体となったプロモーション

- ・寺泊港まつり海上花火大会 (8 月 7 日(月)) 19:30～21:00
米百俵花火「空を見上げてごらん」の打上げ
- ・おぐに大花火大会 (8 月 20 日(日)) 19:30～21:00
「小国地域の花火・フェニックスの打上げ
- ・川口まつり花火大会 (7 月 29 日(日)) 20:00～21:05
超大型ワイドスターメイン(エピセンタ(震央))の打上げ
- ・長岡雪しか祭り雪花火 (2 月 17 日(土)) 18:00～18:18
2 尺玉、大スターメイン、メッセージ花火計

6 台

ホノルルでの花火玉展示・打上げの様子



信濃川夕遊縁日の様子



ウインターファンタジーでの花火打上げ



4 組織力の強化

(1) リスクマネジメントの強化

① 事故リスクへの対応

- ・花火大会規模に即した損害保険保障額の見直しを行った。
全国市長会の賠償責任保険で補えない部分について、保険限度額を1事故5億円から10億円に引き上げを行ったもの
- ・財団役員の法律上の賠償責任に対応する「役員賠償責任保険団体制度」へ新たに加入したもの
補償限度額1億円

② 災害リスクへの対応

- ・災害対応や不測の事態に備え、毎年度の剰余金の一部を積み立てる「災害等対策基金」を設置し、積立を行った。
平成29年度基金積立額 50,000千円

(2) 経営基盤の強化

① 自主財源の調達制度の構築

- ・長岡花火のロゴを使用したタイアップ商品や、地域活性化包括連携協定により、企業と連携しPRを行い、一部商品については、売上の一部を花火財団へ寄付することとした。
- ・アサヒビール(株)107,592円、(株)セブンイレブン 184,738円、計 292,330円

② 「災害等対策基金」の設置（再掲）

- ・災害への対応等の不測の事態に備え、毎年度の剰余金の一部を積み立てる「災害等対策基金」を設置し、積立を行った。
- ・平成29年度基金積立額 50,000千円

(3) 人材の育成

- ・臨時職員に関する就業規程（採用、服務、勤務条件等）等の整備を行った。

タイアップ商品に関する内容（左：アサヒビール、右：セブンイレブンジャパン）



5 理事会の開催

第1回 平成29年4月27日（木）

- 議題
- ・ 諸規程について
 - ・ 報告事項：花火大会及びプロモーション事業等の進捗状況について

第2回 平成29年7月4日（火）

- 議題
- ・ 今年の花火大会の概要について
 - ・ 信濃川夕遊縁日の実施について
 - ・ 報告事項：有料観覧席の販売状況について
 - ・ 災害協定の締結について

第3回 平成29年11月10日（金）

- 議題
- ・ 長岡花火ウインターファンタジーについて
 - ・ 来年度の財団事業について
 - ・ 「白菊」の商標使用にかかる対応について

第4回 平成30年1月26日（金）

- 議題
- ・ 長岡まつり大花火大会有料観覧席販売価格の見直しについて
 - ・ 各地域の長岡花火大会打ち上げ支援に係る実施方針について
 - ・ 日本政策投資銀行との業務協力協定の締結について
 - ・ (意見交換) 平成30年度の事業計画(案)について

第5回 平成30年3月5日（月）

- 議題
- ・ 理事の辞任に伴う補欠理事の選任候補者の決定について
 - ・ 定款の一部変更について
 - ・ 常勤役員の報酬等総額の決定について
 - ・ 契約事務規程の制定について
 - ・ 平成29年度補正予算及び平成30年度事業計画(案)・予算(案)について
 - ・ 平成29年度臨時評議委員会の招集について

第6回 平成30年3月19日（月）

- 議題
- ・ 理事1名の選任を評議委員会に提案する件（書面議決）

6 評議委員会の開催

臨時評議委員会 平成30年3月27日（火）

- 議題
- ・ 理事の選任について
 - ・ 定款の一部変更について
 - ・ 常勤役員の報酬等総額の決定について

- ・役員等報酬規程の制定について
- ・（報告事項）平成29年度補正予算及び平成30年度事業計画・予算について

事業報告の附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

平成29年度 計算書類

一般財団法人長岡花火財団

貸借対照表

平成30年 3月31日現在

一般財団法人長岡火花財団

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	37,627,984	0	37,627,984
流動資産合計	37,627,984	0	37,627,984
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	0	10,000,000
基本財産合計	10,000,000	0	10,000,000
(2) 特定資産			
災害等対策基金特定資産	50,000,000	0	50,000,000
特定資産合計	50,000,000	0	50,000,000
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	259,912	0	259,912
その他固定資産合計	259,912	0	259,912
固定資産合計	60,259,912	0	60,259,912
資産合計	97,887,896	0	97,887,896
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	9,214,202	0	9,214,202
未払法人税等	15,123,300	0	15,123,300
流動負債合計	24,337,502	0	24,337,502
負債合計	24,337,502	0	24,337,502
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	35,000,000	0	35,000,000
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(0)	(10,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(25,000,000)	(0)	(25,000,000)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(25,000,000)	(0)	(25,000,000)
正味財産合計	73,550,394	0	73,550,394
負債及び正味財産合計	97,887,896	0	97,887,896

正味財産増減計算書

平成29年 4月 3日から平成30年 3月31日まで

一般財団法人長岡花火財団

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	[484,384,292]	[0]	[484,384,292]
観覧席販売収益	462,996,660	0	462,996,660
駐車場協力金収益	11,692,970	0	11,692,970
各種販売収益	7,233,915	0	7,233,915
各種賦課金収益	2,460,747	0	2,460,747
受取補助金等	[60,884,608]	[0]	[60,884,608]
受取長岡市派遣職員人件費補助金	60,884,608	0	60,884,608
受取寄付金	[11,053,544]	[0]	[11,053,544]
受取長岡まつり協議会寄付金	5,260,294	0	5,260,294
受取長岡まつり協議会現物寄付金	390,258	0	390,258
受取寄付金	5,402,992	0	5,402,992
受取協賛金	[222,366,239]	[0]	[222,366,239]
受取現金協賛金	48,739,584	0	48,739,584
受取広告協賛金	590,000	0	590,000
受取花火協賛金	159,467,000	0	159,467,000
受取フェニックス花火協賛金	11,994,092	0	11,994,092
受取その他の協賛金	1,575,563	0	1,575,563
雑収益	[17,486]	[0]	[17,486]
受取利息	1,551	0	1,551
雑収益	15,935	0	15,935
経常収益計	778,706,169	0	778,706,169
(2) 経常費用			
大会運営事業費	[559,493,093]	[0]	[559,493,093]
花火打上事業費	183,263,235	0	183,263,235
会場設営事業費	214,791,844	0	214,791,844
安全対策事業費	69,566,152	0	69,566,152
交通対策事業費	32,984,774	0	32,984,774
観覧席販売事業費	47,184,711	0	47,184,711
寄付懇請事業費	8,349,665	0	8,349,665
受入体制強化事業費	3,352,712	0	3,352,712
普及啓発事業費	[11,677,203]	[0]	[11,677,203]
普及啓発イベント事業費	9,770,574	0	9,770,574
伝承活動事業費	1,906,629	0	1,906,629
ブランド発信事業費	[61,516,997]	[0]	[61,516,997]
情報発信事業費	29,160,965	0	29,160,965
海外発信事業費	8,068,751	0	8,068,751
情報発信拠点事業費	5,500,000	0	5,500,000
長岡花火打上プロモーション事業費	18,787,281	0	18,787,281
その他プロモーション事業費	[8,291,185]	[0]	[8,291,185]
その他プロモーション事業費	8,291,185	0	8,291,185
管理費	[99,177,297]	[0]	[99,177,297]
人件費	64,995,123	0	64,995,123
施設費	7,471,372	0	7,471,372
減価償却費	308,546	0	308,546
その他の管理費	26,402,256	0	26,402,256
経常費用計	740,155,775	0	740,155,775
評価損益等調整前当期経常増減額	38,550,394	0	38,550,394

科 目	当年度	前年度	増 減
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	38,550,394	0	38,550,394
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	38,550,394	0	38,550,394
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	38,550,394	0	38,550,394
II 指定正味財産増減の部			
受 取 寄 付 金	[35,000,000]	[0]	[35,000,000]
受 取 長 岡 市 出 捐 金	10,000,000	0	10,000,000
受 取 長 岡 ま つ り 協 議 会 寄 付 金	25,000,000	0	25,000,000
当期指定正味財産増減額	35,000,000	0	35,000,000
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	35,000,000	0	35,000,000
III 正味財産期末残高	73,550,394	0	73,550,394

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・総平均法による原価法によっている。ただし、償却原価法は重要性が乏しいため適用していない。

(2) 固定資産の減価償却の方法

ソフトウェア・・・・・・定額法によっている。

(3) リース取引の処理方法

リース会計基準適用初年度開始前（平成20年3月31日以前）の所有権移転外ファイナンス・リース取引並びにリース会計基準適用後（平成20年4月1日以後）の所有権移転外ファイナンス・リース取引の内、リース料総額が少額（3百万円以下）のリース取引及びリース期間1年以内のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

なお、未経過リース料総額は、4,814,640円である。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	0	10,000,000	0	10,000,000
小 計	0	10,000,000	0	10,000,000
特定資産				
災害等対策基金特定資産	0	50,000,000	0	50,000,000
小 計	0	50,000,000	0	50,000,000
合 計	0	60,000,000	0	60,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
投資有価証券	10,000,000	(10,000,000)	(0)	—
小 計	10,000,000	(10,000,000)	(0)	—
特定資産				
災害等対策基金特定資産	50,000,000	(25,000,000)	(25,000,000)	—
小 計	50,000,000	(25,000,000)	(25,000,000)	—
合 計	60,000,000	(35,000,000)	(25,000,000)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	568,458	308,546	259,912
合 計	568,458	308,546	259,912

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
基本財産 投資有価証券 新潟県平成29年度第3回公募公債(額面1千万円)	10,000,000	10,000,205	205
合 計	10,000,000	10,000,205	205

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 長岡市派遣職員 人件費補助金	長岡市	0	60,884,608	60,884,608	0	—
合 計		0	60,884,608	60,884,608	0	

計算書類の附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記の2. において記載している。
2. 引当金の明細
該当事項なし。

監査報告書



一般財団法人 長岡花火財団

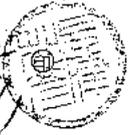
理事長 高見 真二 殿

平成30年5月14日

一般財団法人 長岡花火財団

監事

長津和彦



監事

佐藤行雄



私たち監事は、当法人の平成29年4月3日から平成30年3月31日までの事業年度に係る事業報告、計算書類及びこれらの附属明細書の監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、それぞれ理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況及び事業について報告を聴取し、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査いたしました。

さらに、上記の方法と合わせて、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書について監査いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告及びその附属明細書について

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実の存在は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書について

計算書類及びその附属明細書は、当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上